



環境アセスメント学会  
第14回研究発表大会



龍谷大学(滋賀県大津市)2015.9.4(金)～9.5(土)

第14回環境アセスメント学会研究発表大会へのご参加をお待ちしております。

学会長 柳 憲一郎 (明治大学)  
大会実行委員長 市川陽一 (龍谷大学)

会 期 : 平成 27 年 9 月 4 日 (金) ～ 5 日 (土)

会 場 : 龍谷大学瀬田キャンパス 8 号館地下 (滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5)

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車 (京都駅から普通 17 分)

帝産バス約 8 分 (バス乗り場 3 番 : 龍谷大学行き / 龍大経由公設市場行き)

タクシー約 5 分 (1,200 円程度)

アクセス情報 [http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus\\_traffic/traffic/t\\_seta.html](http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_seta.html)

プログラム構成

月 日	時 間*	内 容
9 月 4 日 (金)	9:30～11:30	特別集会 I、II (別紙)、一般講演
	11:30～13:30	ポスター発表
	12:30～13:00	理事会 (7 号館環境実習室 2)
	13:30～17:45	開会 : 龍谷大学理工学部長、環境アセスメント学会長 特別講演 : 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課 上田宜和 「滋賀県の環境とアセスメント」 シンポジウム : わが国の環境アセスメントと国際社会 (別紙) 奨励賞受賞記念講演 優秀ポスター表彰
	18:00～20:00	懇親会 (REC レストラン)
9 月 5 日 (土)	9:20～12:30	特別集会 III (別紙)、一般講演
	13:30～15:30	「龍谷の森」見学ツアー

\* 発表申し込み件数により、変更することがあります。

7 月中旬にお知らせするプログラムでご確認下さい。

重要な日程：

6月23日（火） 発表申し込み締め切り（口頭、ポスター）

7月31日（金） 参加申し込み締め切り

要旨集原稿提出締め切り（全て：口頭、ポスター、  
特別集会、特別講演、シンポジウム）

参加申込書、執筆要領など [http://www.jsia.net/2\\_convention/convention.html](http://www.jsia.net/2_convention/convention.html)

宿 泊

瀬田駅前には2軒ビジネスホテル（瀬田アーバンホテル、スマイルホテル大津瀬田）があります。

JR琵琶湖線・京都～野洲には、ほとんどの駅前にビジネスホテルがあります。琵琶湖畔、瀬田川畔（石山、南郷）には温泉施設付きのホテル、旅館があります。

会場周辺

大学周辺には徒歩で行ける食堂はございません（学内の食堂は営業しています）。瀬田駅周辺には食堂、飲食店は多数あります。

大学は瀬田丘陵の中にあり、海拔は150m～160mです。近くには、大津宮建設の生産遺跡群や万葉集に詠まれた田上山があります。瀬田の夕照は近江八景の一つで、唐橋から眺める琵琶湖の夕景色のことを言います。JRで瀬田川（石山～瀬田）を渡るとき、南に広がる琵琶湖と北の唐橋方面の景色を楽しんで下さい。秋月で有名な石山寺、晩鐘で有名な三井寺も近くにあります。



龍谷の森の観測タワー

-----  
大会実行委員会事務局

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 市川陽一、横田岳人

電話：077-544-7104

E-mail：jsia2015shiga@gmail.com

## シンポジウム：わが国の環境アセスメントと国際社会

趣旨:

わが国では 1997 年の環境影響評価法成立から 18 年を経て、国内外において様々な環境アセスメントの実績を積み重ねてきた。その結果、多くの技術や手法が開発されるとともに新しい課題も顕在化してきた。このことは、日本に限らず諸外国でも同様なことが起きていると考えられる。今後、国際社会でそれぞれの環境アセスメントの経験を共有化することが重要になると考えられる所以である。

一方、2016 年 5 月に、世界で最も権威あり、国連からも認定されている国際学会・協会、IAIA (International Association for Impact Assessment、国際影響評価学会)の世界大会が愛知県名古屋市で開催されることになった。日本での初開催ということもあり、アジア諸国をはじめとして世界各国から注目を集めており、この機会を通じて環境アセスメント分野での日本発の情報発信が期待される場所である。

このような背景から、2015 年度環境アセスメント学会第 14 回大会にて、「わが国の環境アセスメントと国際社会」と題する公開シンポジウムを企画した。本シンポジウムでは、産官学から環境アセスメントに関わるこれまでの国際的な取り組みについて紹介して頂き、今後、日本の環境アセスメント分野の国際展開の可能性について会場を交えて議論する。

日時：2015 年 9 月 4 日（金）14 時 40 分～17 時

場所：龍谷大学瀬田キャンパス、8 号館地下 8-B101 教室

オーガナイザー：環境アセスメント学会企画委員会

内容

- ・趣旨説明 原科幸彦(環境アセスメント学会国際交流委員会)
- ・パネリスト報告
- (1) 持続可能なアジアに向けた環境影響評価の展開 大森恵子 (環境省環境影響評価課)
- (2) JICA の環境社会配慮の取組みと課題について 柿岡直樹 (JICA 審査部環境社会配慮監理課)
- (3) 環境アセスメントと環境調査・分析技術における JEAS としての今後の国際的な役割 (仮題) 松永忠久 ((一社) 日本環境アセスメント協会海外交流グループ)
- (4) 海外インフラ事業での環境社会配慮：インド DFC プロジェクト等を事例とした日本の EIA 技術適用と海外事業での社会配慮 青木智男 (日本工営(株)コンサルタント海外事業部環境事業部環境技術部)
- (5) 本学会 12 年間の国際交流を振り返って 田中章 (環境アセスメント学会国際交流委員会)
- (6) IAIA16 の日本開催 村山武彦 (IAIA16 実行委員会)
- ・パネルディスカッション「国際社会における環境アセスメント分野の日本の展」  
コーディネーター 原科幸彦

## 特別集会Ⅰ：地熱発電所など冷却塔排気的环境アセスメント技術

趣旨：

2013年に閣議決定された規制改革実施計画には、地熱発電所の環境アセスメントに関連して「拡散予測評価に使用可能な数値シミュレーション技術の確立」が謳われた。このことは大気環境のアセスメントに携わる者にとって2つの大きな意味をもつ。一つは大気拡散という地味な分野が閣議決定の個別措置事項に加えられたという社会的な意義である。もう一つは数値シミュレーションの実用面からの評価が高まったという技術的な意義である。

新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO は 2013 年度から地熱発電技術研究開発事業の一環として、硫化水素拡散予測の数値モデル開発に関するプロジェクトを開始し、本年度末にはアセスメントでの実用につながる成果が得られる見込みである。そこで、本特別集会で内容を紹介して頂き、技術面、実務面からの意見交換を行う。また、冷却塔排気に関連する話題として、近年活用の機会が増えている白煙や温風の拡散モデルについても議論する。

日時：2015年9月4日（金）9時30分～11時30分

場所：龍谷大学瀬田キャンパス、8号館地下 8-B101 教室

オーガナイザー：市川陽一（龍谷大学）

内容（発表、質疑、全体討論）

(1) NEDOにおける地熱発電の普及拡大に向けた取り組み

安生哲也（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）

(2) 地熱発電所に係る環境アセスメントのための硫化水素拡散予測数値モデルの開発  
佐藤歩（(一財)電力中央研究所）

(3) 硫化水素拡散予測シミュレーションモデルの研究開発

大河内春夫（日揮（株））

(4) 湿式冷却塔・空冷復水器からの排気拡散予測モデル

道岡武信（近畿大学）

## 特別集会Ⅱ：「野生生物と交通」の現状とその課題

趣旨：

道路の建設は、改変域に生息する動植物に直接的な影響を、また、大気環境や土壌、水域、周辺個体群など、多様な面で周辺の生態系に影響を与える。日本の生物多様性国家戦略 2012-2020 においては、開発による自然環境への影響が大きいことから、生態系ネットワークの確保、道路事業における動物移動経路の確保や周辺環境への配慮などに努めることが示されている。

環境アセスメントにおいても、事業による環境影響へのミティゲーションとして「回避」「低減」「代償」の措置があり、道路事業では、野生動物の生息域の分断・ロードキルの影響を「低減」するため、動物の移動経路を確保する道路横断施設の設置が検討・実施されつつある。しかしながら、その研究・実務レベルでの対応は発展途上である。

そこで、本集会では、主に北海道および本州の研究事例を紹介するとともに、「野生生物と交通」の現状とその課題を整理し、課題を解決するための方策について議論する。

日時：2015年9月4日（金）9時30分～11時30分

場所：龍谷大学瀬田キャンパス、8号館地下 8-B102 教室

オーガナイザー：山田芳樹（株）ドーコン／ロードエコロジー研究会

内容（発表、質疑、全体討論）

(1) 「野生生物と交通」の現状とその課題の趣旨説明

山田芳樹((株)ドーコン／ロードエコロジー研究会)

(2) 野生動物と車両との交通事故の実態

野呂美紗子 ((一社)北海道開発技術センター／ロードエコロジー研究会)

(3) 地上を歩かない小型哺乳類の保全事例

浅利裕伸((株)長大／ロードエコロジー研究会)

(4) アニマルパスウェイの開発と普及

湊 秋作 (アニマルパスウェイ研究会／関西学院大学)

(5) 日本におけるロードキル、バリアー効果に関する研究と環境保全措置の現状と課題

園田陽一 (国土交通省 国土技術政策総合研究所／現・(株)地域環境計画)

### 特別集会Ⅲ：アセス電子図書の管理

趣旨：

2011 年度研究発表大会では、図書の電子公開を義務付けたアセス法改正を踏まえ、情報委員会のイニシアティブにより特別集会「アセス図書の管理」が開催され、アセス図書の保存と活用について幅広く議論を交わした。当時の問題意識は、アセス図書の手続き終了後の公開や保管方法が所管機関によってまちまちであり、アセス情報が十分に生かされていないことにあった。集会後、議論の内容を踏まえた提案を、環境省のパブリックコメントに呼応する形で、有志連名により提出した。

その後、環境アセスメント情報基礎データベースの構築が進められるなどの改善が図られている。しかし、一旦公開された図書が縦覧期間を過ぎるとWEBから削除されたり、ダウンロードしたアセス図書が縦覧期間後には開けないようにセキュリティを設定されたりしているものもみられる。

この際、アセス電子図書の扱いについて課題の整理を行い、アセスにおける情報交流の向上に寄与したい。また、学会としてのアーカイブ機能やアセス図書評釈活動のあり方の検討に資したい。

日時：2015 年 9 月 5 日（土） 午前 9 時 20 分～11 時 20 分

場所：龍谷大学瀬田キャンパス、8 号館地下 8-B101 教室

オーガナイザー：環境アセスメント学会情報委員会（浦郷昭子、傘木宏夫）

内容（発表、質疑、意見交換）

- (1) 国におけるアセス電子図書の扱い 環境省環境影響評価課
- (2) 電子縦覧の動向に関する調査結果より (一社) 日本環境アセスメント協会
- (3) 大阪府におけるアセスの図書の保存と公開の考え方 大阪府
- (4) 公文書における著作権について 早川和宏(弁護士、桐蔭横浜大学)